

平成二三年度 金沢大学資料館企画展

金沢城の今昔

会 期 平成二三年一二月一二日(月)～平成二四年三月二二日(木)

*土曜・日曜・祝日・年末年始(一二月二九日～一月三日)は休館致します。

会 場 金沢大学資料館展示室(金沢大学角間キャンパス 附属中央図書館内)
開館時間 一〇時～一六時(入館は一五時四五分まで)

企画展「金沢城の今昔」開催にあたって

本企画展は、思わぬ縁がきっかけで生まれました。

話は、かつて本金沢大学の学生部長・工学部長を歴任され、本学の金沢城学術調査委員会において建築・土木の面から金沢城の調査を携わられた、故喜内敏（1914～89）教授の城郭史研究関係のコレクションが、最近、石川県立歴史博物館に寄贈されたことに始まります。寄贈されたコレクションの整理はまだ終了していないようですが、非常に貴重なものであることが次第に明らかになってきているとのことです。ちょうどそんなとき、本資料館では、10・11月に開催した本年度の資料館特別展のために県立歴史博物館の関係者と相談する機会があり、その際、本学で活躍された喜内教授のコレクションの一部が貸出可能であるとの話が出ました。一方、本資料館には、喜内教授が加わっておられた金沢城学術調査委員会が1968～69年に行った金沢城発掘調査の出土品や関係資料が収蔵されています。これは、その発掘調査を担当され、在任中に急逝された法文学部史学科（現在の人文学類）の故井上鋭夫（1923～74）教授ゆかりの品々です。ただ、本資料館としてはいまだまとまった形で展示したことはありませんでした。そこで、この喜内コレクションの一部の借り受けを契機に、かつて金沢大学が行った金沢城の発掘調査に改めて光を当てながら、金沢城の歴史を中世から現在までを追っていくという本展示を企画した次第です。

本企画展では、金沢城の歴史や本学の発掘調査に関するパネルとともに、故喜内教授の集められた貴重な城郭資料の一端や、金沢城発掘の際に見つかった出土品などを展示します。特に注目すべきは、発掘調査の際に発見されたとみられる、**阿弥陀如来が掘られた石像遺物（塔身）**で、金沢城が中世の一向一揆の拠点（金沢御堂などと呼ばれる）だったころのものです。本資料館の貴重資料としてよく知られており、他館への貸し出すことも多かったため、本館では久しぶりの展示となります。

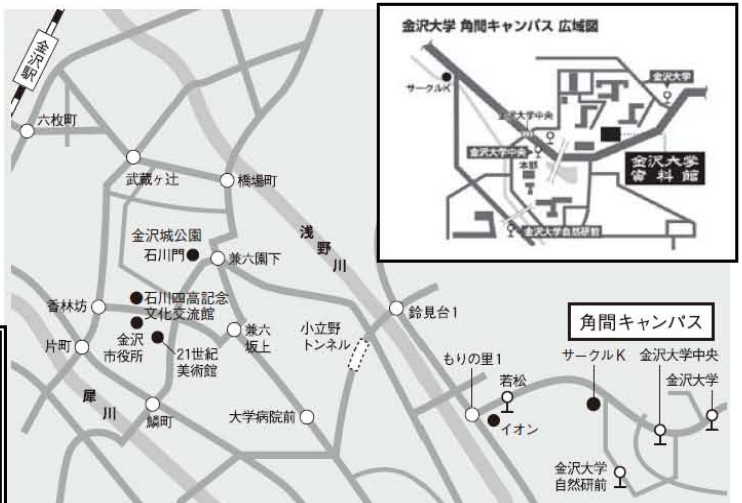
本展示を見たうえで金沢城についてみられれば、また違った視点でお城を眺められるのではないかと思います。ぜひ一度、本企画展に足をお運びください。



←石造遺物（塔身）の阿弥陀如来像



→金沢大学城内整備計画模型



常設展示について

本企画展開催にあたりまして、展示室内のレイアウトを大幅に変更し、中央に企画展を、周囲に金沢大学の歴史をたどる常設展示を配置しました。常設展示も新しい試みですので、こちらもぜひご覧ください。

北鉄バス「金沢大学行き」に乗り「金沢大学中央」バス停下車、徒歩5分。

JR 金沢駅東口からの所要時間は40分。兼六園下からは20分。